

スポーツを愛するすべての皆さまへ

**フェアプレイで  
日本を元気に**

あくしゅ、あいさつ、ありがとう



---

私たち日本体育協会は、

---

「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンを展開しています。

---

その意図や活動内容などをこの冊子にまとめています。

---

ご理解とご協力をいただけますよう、

---

よろしくお願いいたします。

---

公益財団法人 日本体育協会

## はじめに

国内外の社会状況の変動に伴い、スポーツやスポーツを取り巻く環境が変化する中、日本体育協会が担う役割も、「スポーツを普及・振興し、国民体力の向上を図ること」に加えて、「スポーツの持つ価値や意義を広くアピールするとともに有効に活用し、国民の生きる力の育成と活力ある社会の構築に貢献していくこと」が期待されています。

日本体育協会は2011年に創立100周年という節目の年を迎え、これからの100年に向け、体育・スポーツの価値と日本体育協会の方向性を明確に打ち出す絶好の機会をえました。

私たちはスポーツからたくさんのごことを学び、スポーツに育てられてきました。スポーツの素晴らしさを経験してきたからこそ、スポーツに感謝し、その素晴らしさを未来の子どもたちに伝えていく義務があります。これからは私たちがスポーツを育てていかなければなりません。

今、日本に求められているのは、思いやりであり、絆であり、たくましさであろうと思います。スポーツを通じて育まれるフェアプレイは社会を元気にする人づくり、地域づくり、国づくりに必ず貢献できるはずです。

日本体育協会では、このキャンペーンを展開するにあたり、スポーツを愛する皆さまには、ぜひとも推進役となっていただきたいと願っております。

「フェアプレイで日本を元気に」を合言葉に「あくしゅ、あいさつ、ありがとう」という具体的な行動を通じて、スポーツで日本社会を元気にしていきましょう。

公益財団法人 日本体育協会

# 1 フェアプレイには、大きく2つの意味があると考えます

- 行動としてのフェアプレイ
- フェアプレイ精神(フェアな心(魂))

→ P3・4

# 2 スポーツを取り巻く環境の変化とスポーツへの期待

- 現代社会におけるスポーツへの期待
- 「スポーツ」は存在そのものに社会的価値がある

→ P5・6

# 3 長期的な視野から見た キャンペーンの活動

- 様々な形で広げていく「フェアプレイ」の活動
- まずはWEBで「フェアプレイ」を
- キャンペーン展開ツール

→ P7~12

# 4 フェアプレイについての 歴史と参考資料

- 日本体育協会におけるフェアプレイの歴史的な流れ
- 日本体育協会が考えるフェアプレイとは

→ P13~18

# 5 「フェアプレイで日本を元気に」 キャンペーンへの取り組み例

- 公益財団法人新潟県体育協会／  
静岡大学教育学部／岡山県ミニバスケットボール連盟  
公益財団法人日本ソフトテニス連盟

→ P19~20

# 1 フェアプレイには、大きく2つの意味があります

**一つは、行動としてのフェアプレイ**です。スポーツは定められたルールのもと、対戦相手（記録）と競い合い勝利を目指します。その時に、ルールを守る、審判や対戦相手を尊重する、全力を尽くして戦い、勝っても驕らず、負けてもふてくされたりしないことなど、実際の行動としてのフェアプレイ（フェアなプレイ）です。

**そしてもう一つは、フェアプレイ精神**というもの。まさにフェアな心（魂）のことを意味します。これはスポーツの場面に限らず日常生活の中でも、自分の考えや行動について善いことか悪いことかを自分の意志で決められること。自分自身の心に問いかけた時、恥ずかしくない判断ができる心（魂）のことをいいます。

行動としてのフェアプレイは、定められた決まりの中で、誰から見ても善いと思われる行為になります。一方、心（魂）のフェアプレイは自分自身の心のあり方によるものですから、他人からは見るできません。しかし、行動と精神は切り離せないものです。だからこそ、この2つのフェアプレイは、スポーツを真に楽しむ上で欠かせないものなのです。

※参考資料の一部を資料編でご覧いただけます

## 平成17年から3期6年間、日本体育協会会長を務めた 森喜朗氏（現名誉会長）は 自著「ノーサイドの心」の中で次のように述べています。

フェアプレイ精神とは、いかなる事態が起こっても、己の良心に従ってプレーする、ということなのです。

そう、ラグビーの試合でルールを守るのは、ルールブックに記載されているからではありません。それは、「人としてどう生きるか」というモラルの根幹に関わる問題です。

今の時代、自己規制ほど求められているものはないでしょう。

「バレなければズルをしてもいい」

「自分が儲かるなら、他人をだまし、蹴落としてもいい」

という風潮が強くなってはいないでしょうか？悪事は見つかる、見つからないという問題ではありません。ルールを守ること、そして何より己の中のルールにのっとって、自分を律するということが実社会では大切なのです。

（森喜朗 ノーサイドの心 小学館 2010 P111）

## フェアプレイとは

行動としての  
フェアプレイ



フェアプレイ精神  
(フェアな心〈魂〉)

このフェアプレイの行動そして精神を、  
世の中に広げ浸透させることが、  
「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンの  
大きな目標です。



# 2

## スポーツを取り巻く環境の変化と スポーツへの期待

スポーツやスポーツを取り巻く環境が変化する中、日本体育協会（日体協）が担う役割も、  
「スポーツを広く普及・振興し、国民の体力を向上させる」ことだけでなく  
「スポーツの持つ価値や効用を引き出し、社会に貢献していくこと」も期待されている。

### 現代社会における課題

- 少子高齢化
- 雇用問題、低所得
- 地域コミュニティの希薄化
- ひきこもり、薬物依存
- 自殺、孤独死
- いじめ、暴力、虐待
- 国際紛争
- 環境破壊

### スポーツ界における課題

- 子どもの体力・運動能力低下
- 学校スポーツ（部活）の変化
- 企業スポーツ休廃部
- 過剰な勝利至上主義
- ドーピング問題
- 体罰、セクシュアル・ハラスメント
- スポーツ組織のガバナンス問題

### 現代社会におけるスポーツへの期待

- 豊かな人間性の育成（コミュニケーション能力やリーダーシップの育成）
- 健康保持増進と疾病予防による医療費・介護費の抑制
- 明るく活力ある社会づくり、地域コミュニティの再生、新しい公共への貢献
- 国際交流と相互理解促進
- スポーツ産業の広がりによる経済発展
- 環境問題意識の高揚

「スポーツが社会に対して何ができるか」が問われている

### これまで

#### スポーツの普及・振興と国民体力の向上

- 国民体力の向上、生涯スポーツ促進
- スポーツをする「喜び」や「楽しさ」の提供
- スポーツ人口の増加、スポーツ機会の増加
- 国内外の交流事業を通じたスポーツの存在価値の向上 など

### これから

#### スポーツによる社会の元気化

- ストレス社会に力強く生きる人材の育成
- スポーツによる新しい公共の形成
- グローバル課題（福祉社会、環境問題、国際平和等）への寄与・貢献 など

問いへの答え

「スポーツ」は存在そのものに社会的価値がある（次ページへ）

「スポーツ」は存在そのものに社会的価値がある

なぜならば、スポーツは、  
社会で生きる上で必要な力(生きる力・人間力)の育成に貢献するから。

### スポーツの意義

※日体協：21世紀の国民スポーツ振興方策(H20.3.5)

スポーツは、身体活動という人間の本源的な欲求に応えるだけでなく、成功や失敗、達成と挫折、競争と共同、喜びと悲しみなど、まさに人間として“生きる”ことの直接的な体験の機会を与えてくれる。それらの直接的な体験を通じて、爽快感、達成感、他者との連帯感などの精神的な充実、楽しさや喜びを感じることができるだけでなく、体力や技能など身体的な能力の向上を図ることができる。交通や情報技術などの高度化が、ますます進展することが予想される21世紀社会において、このような直接的な体験の機会となるスポーツ意義は一層大きく、スポーツを楽しむことのできる力は、もはや現代人が身につけるべき“教養”の一つとなりつつある。

#### 生きる力(定義)

※文部科学省：学習指導要領の理念(H21)

- 基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して、自ら考え、判断し、表現することにより、さまざまな問題に積極的に対応し、解決する力
- 自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性
- たくましく生きるための健康や体力 など

#### 人間力(定義)

※内閣府：人間力戦略研究会(H15.4.10)

- 社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力
- 知的能力的要素：論理的思考力・創造力 など
  - 社会・対人関係力的要素：コミュニケーションスキル・リーダーシップ・規範意識 など
  - 自己制御的要素：意欲・忍耐力・自分らしい生き方や成功を迫る力 など

ただし、  
スポーツが社会的価値を有するためには一つの条件がある

「スポーツ」を経験さえすれば、「生きる力」・「人間力」は身に付くのか？  
「スポーツ」が適切な環境の中で育まれた場合にのみ、「生きる力」・「人間力」が身に付く  
スポーツの適切な環境整備を担っているのが日体協

つまり、日体協は  
「スポーツ」の社会的価値を育むために存在している

世の中の仕組みが複雑化し、価値観が多様化している現在だからこそ、誰もが共感できる公共の形成が求められ、社会的な人材が必要とされます。私たち日本体育協会は、国民体力の向上と、スポーツ精神の育成(フェアプレイの行動、精神を広げて行くこと)で、その実現をはかり、社会へ貢献していきます。

# 3 長期的な視野から見た キャンペーンの活動

フェアプレイを世の中に浸透させるには、たいへん長い時間がかかります。1年や2年の活動で成し遂げられるものではありません。だからこそ、スポーツに深く携わる私たちが核となり、フェアプレイを意識することで、徐々に世の中へと波及されるものと考えています。その1歩1歩は、とても小さいかもしれませんが。しかし、その歩みを止めることなく10年進めば、理想に大きく近付けるはずです。

長期的な視野から見た  
「フェアプレイで日本を元気に」  
～あくしゅ、あいさつ、ありがとう～

## 1 日体協の各事業により楽しく安全なスポーツ環境整備が進む。

国体

日本スポーツ  
マスターズ

総合型  
スポーツ  
クラブ

スポーツ  
指導者育成

スポーツ  
少年団

国際交流

スポーツ  
医・科学

## 2 フェアプレイが理解され、 生きる力・人間力を有する人材が増える。

## 3 アスリートとして、指導者として、さらには一人の社会人として、 様々な形でスポーツを通じた社会貢献の推進役となる。

## 4 さらに多くの人々に、フェアプレイの行動・精神が広がっていく。

- 公正で福祉豊かな地域生活
- 環境と共生の時代を生きるライフスタイル
- 平和と友好に満ちた世界  
へと貢献していく。

スポーツ  
宣言日本





## 様々な形で広げていく「フェアプレイ」の活動

### あくしゅ、あいさつ、ありがとう

フェアプレイの具体的な実践として、「あくしゅ、あいさつ、ありがとう」を広げます。

フェアプレイを広げていくための活動として、「あくしゅ、あいさつ、ありがとう」を推進します。誰もができて、誰もが気持ち良くなる行動。そして、スポーツをしている時も、スポーツをしていない時でもできる行動を喚起させ、フェアプレイの活動を目に見えるものとして広げて行きます。

#### 「あくしゅ、あいさつ、ありがとう」

あくしゅをしよう。

ゲームを始める時、ゲームができることへの感謝の気持ちを込めて、対戦相手と審判と握手をしよう。

ゲームが終わった時、互いの健闘を称えあい対戦相手と握手をしよう。

ゲームを進めてくれた審判に、再び感謝の気持ちを込めて握手をしよう。

あいさつをしよう。

練習が始まる時、仲間たちとあいさつをしよう。

きっと信頼はどんどん深まるはず。

練習場所で会う人や、町の人たちにもあいさつをしよう。

その一言がスポーツの輪を広げることになるはず。

ありがとうと言おう。

家族やコーチに、ありがとうと言おう。

審判や応援してくれる人たちに、ありがとうと言おう。

ゲームの準備してくれた人たちに、ありがとうと言おう。

もっともっと、キミたちを支えてくれるようになるから。

### フェアプレイ7カ条

フェアプレイの意味を凝縮した「フェアプレイ7カ条」を制定しました。このフェアプレイ7カ条は、スポーツにおいてだけでなく、ふだんの生活でも自らの行動の指針となるものです。様々な機会でも浸透させていきます。

#### 「フェアプレイ7カ条」

1. 約束を守ろう
2. 感謝しよう
3. 全力をつくそう
4. 挑戦しよう
5. 仲間を信じよう
6. 思いやりを持とう
7. たのしもう



## まずはWEBで「フェアプレイ宣言」を。

フェアプレイキャンペーンサイトにアクセスして、「フェアプレイ宣言」してください。  
その行動が、フェアプレイの輪を広げる一歩になります。




### フェアプレイ宣言

私は、スポーツを愛する者として、  
何ごとにも全力で取り組み、  
精神・肉体ともに成長させることに努めます。

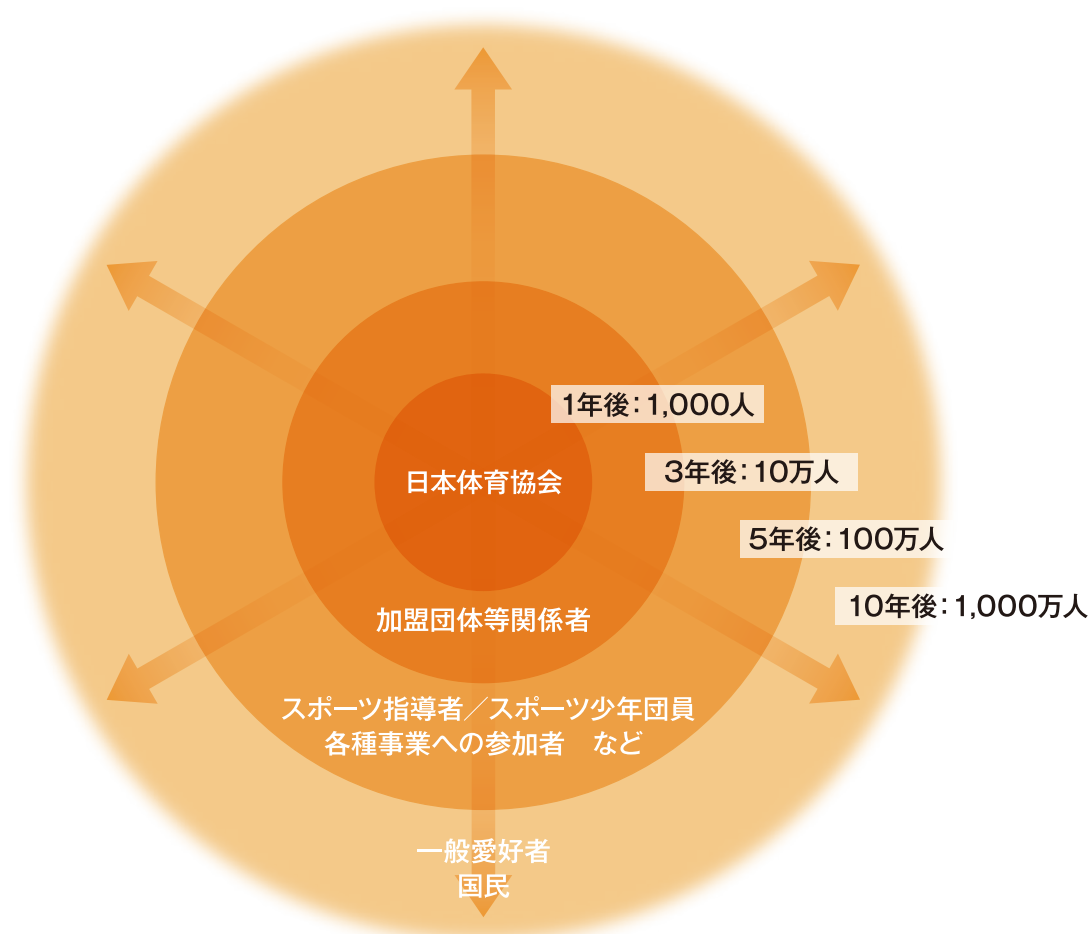
そして、フェアプレイを通じて  
思いやり、誇り、努力、勇気を  
最大限に発揮し、その力を人に、地域に、  
社会のために生かしていきます。

そのための具体的な行動として、  
あくしゅをする、あいさつをする、ありがとうと言う、の  
3つを実践していくことを宣言します。

キャンペーンの第一歩として、まずは私たちから「フェアプレイ宣言」をしましょう。そこからまわりに波及し、「私もやってみよう」という人がどんどんと現れるはず。  
気軽にできる行動が小さな一歩となり、目標へ向かって歩み出すきっかけとなることを信じています。



## 100万人のフェアプレイ宣言へ。 その火付け役は、私たちです。



## 社会全体にフェアな精神が浸透し、元気な日本に!

一つ一つの行動は、小さなことかもしれませんが、  
でも、それをみんなが少しずつ続けることによって、  
大きな流れが生まれます。  
はじめは数人の「フェアプレイ宣言」が、  
2016年には100万人へと広がることを目標にします。

# キャンペーン展開ツール

スポーツを愛するすべての皆さまへ

**フェアプレイで日本を元気に**  
あくしゅ、あいさつ、ありがとう

私たち日本体育協会は、「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンを展開しています。その意図や活動内容などをこの冊子にまとめています。ご理解とご協力をいただけますよう、よろしくお願いたします。

公益財団法人 日本体育協会

キャンペーン趣意書

関係する団体や公認スポーツ指導者等に向けて、配布します。

**フェアプレイで日本を元気に**  
あくしゅ、あいさつ、ありがとう

フェアプレイとは、フェアプレーのこと。スポーツは、公平競争の場である。スポーツは、文化圏を超えて行われる。文化圏を超えて行われるスポーツは、異文化を学ぶ機会となる。また、文化圏を超えて行われるスポーツは、異文化を学ぶ機会となる。また、文化圏を超えて行われるスポーツは、異文化を学ぶ機会となる。

みんなでスポーツを！  
SPORTS for all

ASICS MIZUNO LAWSON LOTTE SUNTORY

公益財団法人 日本体育協会  
http://www.japan-sports.or.jp/

雑誌広告・ポスター(2種)

雑誌広告は、スポーツジャパンをはじめ、スポーツ関連雑誌に掲載していきます。ポスターは、日本体育協会関係各所や大会・イベント等で掲出します。

SPORTS for all

**フェアプレイで日本を元気に**  
あくしゅ、あいさつ、ありがとう

あくしゅ たいけんくん  
あいさつ たいけんくん  
ありがとう たいけんくん

あくしゅ ゼーム物語に登場するキャラクター。個性豊かにあかすよう。

あいさつ 練習中に登場するキャラクター。元気なあいさつをしよう。

ありがとう 練習中に登場するキャラクター。練習を頑張る姿を応援しよう。

フェアプレイの心を育むために、まずは「あくしゅ、あいさつ、ありがとう」をしっかりと実践しましょう。信頼や感謝の気持ちで、自然と育ちあひまう。

日本体育協会

ASICS MIZUNO LAWSON LOTTE SUNTORY

**フェアプレイで日本を元気に**  
あくしゅ、あいさつ、ありがとう

SPORTS for all ASICS Otsuka MIZUNO 三井住友海上 LAWSON LOTTE SUNTORY 公益財団法人 日本体育協会

横断幕

日本体育協会関連の大会・イベント等で掲出します。



記者会見用バックボード

日本体育協会関連の大会・イベント等での記者会見に使用いたします。

FAIRPLAY NEWS

激戦のあとのいたわり

パンチで夢をきりひらく

スポーツ豆知識

フェアプレイ 読書

SPORTS for all

フェアプレイニュース

全国の小・中学校に「スポーツニュース」とともに年14回送付します。



### 要約リーフレット

全国のスポーツ関係者に向けて配布します。



### フェアプレイ宣言書

下記専用サイトからダウンロードができます。



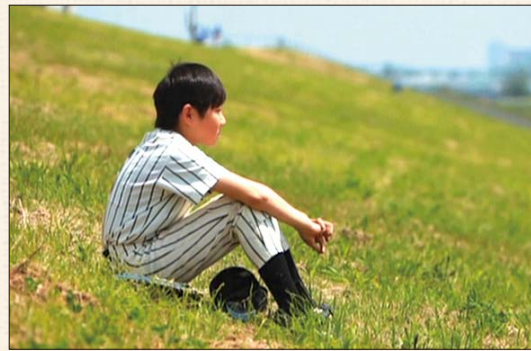
### キャンペーングッズ

関係団体やイベント参加者等に配布します。



### キャンペーン専用サイト

<http://www.japan-sports.or.jp/fair/>  
キャンペーンの中心となる媒体として「フェアプレイ宣言書」を作ることができます。



### キャンペーン映像

映像によってキャンペーンイメージを伝えていきます。  
左記サイトよりご覧になれます。

## そのほかの展開 ～全国のスポーツ関係者へのお願い～

### 各種事業の挨拶文・選手宣誓への「フェアプレイ」に関する文言の挿入

18ページに掲載したガイドラインを参考に、日本体育協会主催事業はもとより、加盟団体が主催される各種事業においても「フェアプレイ」の浸透が図れば、このキャンペーンは大きく前進します。  
どうか皆様のご協力をお願いいたします。

# 4 | フェアプレイについての 歴史と参考資料



フェアプレイとはどういうことなのかを調べ考えるうえで、

参考になった資料の一部を紹介します。

ご覧いただき、フェアプレイとは、スポーツとはといった根本的なことに、  
考えを巡らせていただければ、それこそが「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンの  
最終的な目標である、真のフェアプレイを世の中に普及させていくことの

大きな力になると考えています。

# 日本体育協会における フェアプレイの歴史的な流れ

## 「19世紀にイギリスで生まれた アマチュアリズムの精神※」

キリスト教を根源とした「騎士道：ジェントルマンシップ」をベースにアマチュアリズムが生まれる。

- **スポーツマンシップ** の発生
- **フェアプレイの精神**

※ 参考／「共通科目テキスト」P40～48、  
「最新スポーツ科学辞典」P529、  
「スポーツ大辞典」P651、「闘争の倫理」など

## 嘉納治五郎の思想

### 精力善用

善をなすことを目的として、心身の力を最も有効に働かせること。※1

※1「嘉納治五郎著作集（第一巻）」P146  
※2「嘉納治五郎私の生涯と柔道」P145より一部要約

### 自他共栄

他人よかれと考へ、これを行いつつ己もよくし、己をよくしつつ他の利をはかること（自分のためにも行動するのではなく、社会の存続発展にも貢献する行動をとること）。※2

## ■ 昭和22年「日本体育協会アマチュア規程」を制定

⇒4度の改正の結果、現行の「日本体育協会スポーツ憲章※」に至る。

※憲章全文は日体協ホームページ（組織概要ページ）でご覧いただけます。

### アマチュア規程制定の理由（「日本体育協会75年史」P117）

第二次世界大戦後、自由主義、民主主義の勃興と注入によって、スポーツは、雨後のたけのこのように発生した。スポーツ団体をはじめ、新聞社等の企業体も、その形態を整えると共に、スポーツ大会の開催に情熱を傾けた。しかも、これらの間には、ほとんど連絡協調がなく、それぞれ、自由の立場において、自由な方法で競技会を催した。このために、参加するスポーツ人の間にも、純粋なるべきスポーツを蝕むような事態も見え始めた。この事態を放置しておく、アマチュア・スポーツの発達上収拾のつかぬ状態に発展する懸念も多かった…。（以下省略 ※規程全文は75年史でご覧いただけます）

## ■ 昭和46年 規程を改正「日本体育協会アマチュア規定」

東京オリンピック終了後、時代の流れに対応した（現状に即した）アマチュア規程が求められるようになり、昭和46年1月1日からは「アマチュア・スポーツのあり方」と「日本体育協会アマチュア規定」（このときから「規程」を「規定」に変更）が施行されました。

ここで制定された「アマチュア・スポーツのあり方」は、それまでアマチュア・スポーツマンの倫理規定とされていた「**スポーツマン綱領※次ページ参照**」を吸収したもので、「日本体育協会アマチュア規定」は、加盟競技団体がそれぞれのアマチュア規定を定めるにあたっての基準となる条項を定めたものでした。

（「日本体育協会75年史」P169～170より一部要約）

### アマチュア・スポーツのあり方

スポーツは、人々が楽しみと、よりよく生きるために、他から求められることなく、自らの能力に応じて行う自由な身体活動である。明るい光と、すがすがしい環境の中で行われるスポーツは、そのまま豊かな国民生活の形成に役立つものとなる。

このようにして育まれるスポーツが、あまねく国民の間に行きわたることによって、健康な国民がつくられ、正しいスポーツマンシップが生まれることを願い、ここにアマチュア・スポーツを楽しむ人々のあり方を定めた。

#### アマチュア・スポーツマンは

1. スポーツを愛し、楽しむために、自発的に行う。
2. ルールに従い、フェアプレーに終始する。
3. 常に相手を尊重しつつ、自己の最善を尽くす。
4. スポーツを行うことによって物質的利益を求めない。
5. スポーツによって得た名声を利用しない。

## 参考 昭和28年「スポーツマン綱領」の作成に協力

(参考:「日本体育協会50年史」P102)

戦後、スポーツの振興が一般に重要視されるようになり、国会のスポーツ議員連盟においても国民を挙げてスポーツの振興を図ることの必要性が強調されるようになりました。

そして、昭和24年5月26日、首相官邸でスポーツ振興会議が発会しました。この会議はスポーツの問題を政治に反映させ、その推進を図ることに努力してきましたが、その具体的な成果として現れたのが「スポーツマン綱領」でした。このスポーツマン綱領こそが、アマチュア・スポーツにおける“倫理規程”とされるものでした。なお、スポーツ振興会議には、日本体育協会から4名、各加盟団体から1名ずつ、地域代表9名が参加したことに加え、仮事務所を日本体育協会内に置くこととなったため、外観上も日本体育協会の付属機関のようになり、総会なども国体を機会に開催されていました。

これにより、日本体育協会がパンフレットを作成したり、国体プログラムに掲載するなど積極的に周知徹底を図るようになりました。

### スポーツマン綱領

スポーツは人間だけがもつ文化の一つである。

これをより高く、より美しいものにするには、スポーツを行うものの精神とそれをとりまく環境の清らかなことが必要である。美しいスポーツマンシップは、このような世界のなかに生れ、やがて生活を導く基として社会のために貢献するであろう。故にスポーツマンは競技場にあるとおなじ精神と態度で生活し、りっぱな社会人でなければならない。ここに真のスポーツがあまねくゆきわたり、すべての人のものとして発展することを希い、スポーツマン綱領を定めた。

- 競技するものは、スポーツを愛好し、ひいてはそれを心と身体の糧とし、明るい光とすがすがしい空気のなかで、純粹にスポーツを行うこと。
- 競技するものは、スポーツを行うことによって、社会的な名声や物質的な利益を得ようという考えをもたないこと。
- 競技するものは、審判の判定を重んじ、その決定に満足しない場合でも感情に支配されぬ行動をとること。
- 競技するものは、つねに、明朗で、相手を尊重しつつ自分の最善をつくし、その成果に満足すること。
- 競技を審判するものは、規則に従って公正に判断し、競技を明るく滑らかに進めること。
- 競技を見るものは、感情にとらわれた応援はせず、美しい精神とすぐれた技をたたえ、スポーツのよりよい発展を希うこと。

## 参考 ヨーロッパ・スポーツ倫理綱領(抜粋)

1992年5月 ヨーロッパ・スポーツ閣僚会議

### フェアプレイの定義

フェアプレイは、ルールの範囲内でプレイすること以上のものとして定義される。すなわち、友情、他者への尊厳、終始正しく振舞う精神といった概念をも包含している。したがって、フェアプレイとは、単なる行動様式ではなく、ひとつの思考様式として定義される。

フェアプレイは、不正、ルール違反まがいの行為、ドーピング、暴力(身体的および言葉による)の行使、機会の不平等、行過ぎた商業主義化と腐敗を排除する問題をふくんでいる。

### スポーツ団体の責任(抜粋要約)

- 何が倫理的か又は非倫理的かを判断する明白な指針を作成すること。
- フェアプレイの自覚を促すために、スポーツ団体ができる範囲で、キャンペーン活動や表彰制度、教材、研修機会を活用すること。

日本体育協会設立の頃から語られてきたフェアプレイやスポーツマンシップ。しかし、スポーツの商業化が進みオリンピック憲章からアマチュアという文字が消え、日体協でもアマチュアリズムが語られなくなったところから、日体協の目的である「スポーツ精神の養成」を積極的に発信しなくなってしまったのではないか。





## 大西鉄之祐\*「闘争の倫理」より (中央公論新社 1999)

※昭和50年4月から60年3月まで、日体協アマチュア委員会委員長

### 大西鉄之祐のフェア論 (P265・271・280)

フェアは、自分の良心に照らして絶対に恥じない行動、それを誇りとするような共通の精神です。これは、自分というものの絶対的な価値判断として自分の生き方がきれいか汚いかという考え方であろうと思う。その価値基準は自分が決めるものだ、「こんなものだ」と言うのは難しい。しかしそういうものはこの世の中に必ずある。それがスポーツをやっているうちにできあがってくる。

### 大西鉄之祐のスポーツの定義からフェア論に至るまでの流れ

ホイジンガが「ホモ・ルーデンス」でいうように「スポーツ」はプレイ(遊戯)の一部である。つまり、スポーツの基本的な特質は「自己目的行動」である(P62)。しかし、「現代スポーツ」は、プレイではなく勝利を目的とした「目的行動」であるゲームの成立を必要とする(P62・193)。

### 「現代スポーツ」は3つの機能(特性)を持つ

遊戯性

闘争性

技術性

が、これらを自由に放っておいたらとんでもない方向に進む (P239・279)

娯楽・享楽  
への墮落  
(例:ローマ帝国)

殺し合いになる

生命を賭して  
までの追求

だから、  
行動を律するためのルールやフェアプレイの精神等が必要になる (P188)

これら3つの機能を統制する何物かは言葉で表すことはできない  
あえて言うなら「人間性」としか言いようがない (P279) =フェア論  
つまり、フェアでなくてはスポーツが成り立たない

スポーツをするとき、当初は「勝ちたい」等、目的行動ではじめてものが、  
いつしか、勝つか負けるか最後の段階になって「勝ち負けは関係ない。  
全力を尽くしやるだけのことはやった」という楽しみ三昧の域に達する  
(無の境地:自己目的な行動となる)。  
フェア、ということが行動によって実感される (P279)。

山下泰裕氏(神奈川県体育協会会長)

「勝利にこだわった上で、しかし最後の最後は勝利への執着を捨てなければ頂点には立てない」  
(山下泰裕 指導者の器 日経BP社 2009 P49)

## 日本体育協会が考えるフェアプレイとは

### スポーツとは

「遊戯の性格を持ち、自己または他人との競争、あるいは自然の障害との対決を含む運動」

「フェアプレイのないところには、真のスポーツは存在しない」

スポーツ宣言(メキシコオリンピック・スポーツ科学会議、1968年)

【フェアプレイ】 ①運動競技で、正々堂々たるふるまい。②公明正大な行為・態度 (広辞苑)

### スポーツを楽しむために必要な要素

- ルール: 法的安定性の確保、正義の実現、面白さの保障
- 対戦相手: 勝利することをさらに難しくする  
(自己または他人との競争、あるいは自然の障害との対決)
- 勝負へのこだわり: 徹底して勝負にこだわる(ただし、勝負の結果にはこだわらない)
- 審判: ゲームが公平に行われているか客観的に判断

アゴーン(競争)の墮落は、『審判や判定が一切無視されるところから始まる』 (カイヨワ「遊びと人間」)

## 【結論】フェアプレイには2つの意味がある

### 行動としてのフェアプレイ

スポーツは、勝利を目指したゲーム(遊び)なので、ゲームを成立させるためにもフェアなプレイに徹するのは当たり前。

- ルールと対戦相手と審判を尊重する
- 全力を尽くして戦い、勝って驕らず、負けてもふてくされない。

しかし、スポーツにおいては、どうしても勝ちたいという欲求の中で、自分の勝利を難しくするルールや、勝利という同じ目的を持って自分を阻もうとする相手を尊重しなければならないという、相反する厳しい状況におかれる。

### フェアプレイ精神

勝利を目指す極限の中で、フェアなプレイに徹するための揺るぎない心(魂)が必要とされる。

- 自分の考えや行動について、善いことか悪いことかを自分で決められること
- 自分自身の心に問いかけた時、恥ずかしくない判断ができる心(魂)

# 各種事業における挨拶文・選手宣誓に関するガイドライン

日本体育協会では、各種事業における役員の挨拶文や、開会式での選手宣誓において、下記のようなワードを使用することを推奨します。

## <推奨するワード>

- フェアプレイで日本を元気に  
※(「日本」は、開催地名等でも結構です)
- フェアプレイ、フェアプレイ精神、フェアな精神(心構え)
- あくしゅ、あいさつ、ありがとう
- 上記のほか、日本体育協会スポーツ憲章(下記参照)の内容を踏まえた文言

## 【日本体育協会スポーツ憲章<sup>※</sup>で規定された内容(抜粋)】

※憲章全文は日体協ホームページ(組織概要ページ)でご覧いただけます。

### ■スポーツ精神の解説

「スポーツ精神」とは、自らスポーツを行うことに意義と価値をもち、スポーツの競技規則、スポーツマンシップやフェアプレイに代表されるマナー、エチケットなどのスポーツ規範に基づき、生涯を通じて自己の能力・適性等に応じて、主体的・継続的にスポーツの楽しさや喜びを味わうことを意味するものとする。

### ■スポーツを行う者の心得(第2条)

- スポーツを愛し、楽しむために、自発的に行う。
- 競技規則はもとより、自らの属する団体の規則を遵守し、フェアプレイの精神を尊重する。
- 常に相手を尊重しつつ、自己の最善を尽くす。
- アンチ・ドーピングに関する規程を遵守する。

## 役員挨拶文(例)

日本体育協会では、「フェアプレイで日本を元気に」を合言葉に「あくしゅ、あいさつ、ありがとう」という具体的な行動を通じて、日本社会を元気にしていこうというキャンペーンを展開しています。

まずは、スポーツ界に携わる私たちが率先して、スポーツ活動中だけでなく日常生活においても相手の尊重やフェアな振る舞いなど、清々しく気持ちのよいフェアプレイを実践し、日本を元気にしていきましょう。

# 5 「フェアプレイで日本を元気に」 キャンペーンへの取り組み例

キャンペーン開始以来、日本各地でフェアプレイに関する取り組みが行われています。その活動のひとつひとつが、日本のフェアプレイの芽ではないでしょうか。日本体育協会は、これらの芽を大きく成長させ、日本中に広めるために、真摯にキャンペーン活動を続けてまいります。

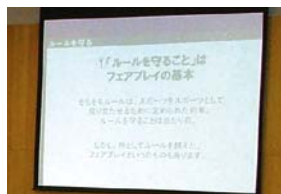
## スポーツ指導者研修会で「フェアプレイ」をテーマに講演

公益財団法人新潟県体育協会



私もこのキャンペーンの策定に係わっていたため、この活動を現場の指導者に定着させたいとの思いがあり、スポーツ指導者を対象にした研修会のテーマに「フェアプレイ」を取り上げることにしました。講師に日本体育協会 広報・スポーツ情報専門委員会委員 田中安人氏を迎え、平成24年3月4日に研修会を実施しました。参加した指導者の皆さんは、フェアプレイが当たり前のことで普段は特に意識することはないようでしたが、改めてフェアプレイとは何かを考える貴重な機会になったようです。フェアプレイの意識が高まったおかげでしょうか、研修会後に参加者から自分が指導しているクラブの子ども達に広めたいという問い合わせがあり、リーフレットを提供しました。

新潟県体育協会競技スポーツグループ  
副参事 木村行男



## 大学の体育の授業で「趣意書」を活用

静岡大学教育学部



アルティメット 写真はイメージで実際の講義風景ではありません。

「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンの趣意書に記載されている「行動」と「精神」の両面からフェアプレイについて言及されている内容に興味を持ち、体育の授業に活用できると思いました。

そこで、大学1年生を対象にした“アルティメット”という競技を題材にした授業において、実技に入る前に趣意書を利用してフェアプレイについて講義し、さらにグループディスカッションを行いました。アルティメットは審判ではなくセルフジャッジ制を用いた競技なので、フェアプレイの意識がより明確になると思ったからです。

学生にとっては、言葉だけの説明ではピンとこないようでしたが、実践(試合)と結びつけることでわかりやすくなったようでした。ゲーム形式の授業では、これまで以上に、フェアなプレイをお互いに意識しているように感じました。

これからもフェアプレイについて授業に取り入れ、学生自身がフェアプレイについて真剣に考える機会を設けていきたいと思えます。

静岡大学教育学部 保健体育講座生涯スポーツ教室  
教授 杉山康司



## 連盟の活動に即した内容にして フェアプレイ宣言を推進

岡山県ミニバスケットボール連盟

「フェアプレイ宣言」  
岡山県ミニバスケットボール連盟  
会長 下山 泰志

ミニバスケットボールの理念は「友情・ほほえみ・フェアプレイの精神」の三つの言葉に象徴されています。われわれ岡山県ミニバスケットボール連盟は、この概念をより具体的に、加盟するチームが共通の思いの基に、より充実した活動を行い、競技力の向上と社会に貢献できる人づくりを旨とします。

【活動に関する指針】

- 人間尊重の精神
  - ・お互いの立場を尊重しあい、協力的な活動を行う
  - ・真心と思いやりの心を養い、その精神で人と接する
- 挑戦と努力
  - ・常に高い目標を掲げ、それに向かってチャレンジする
  - ・常に努力を怠らず、ゲームにおいては勝利のために最善を尽くす
  - ・健康的な身体と心を育み、いきいきとした生活をおくる
- 勝者と敗者
  - ・勝利したときは謙虚であり、相手を思いやる気持ちを忘れない
  - ・敗者になったときは相手を讃え、誇りを持って敗戦を受け入れる
- あくしゅ・あいさつ
  - ・ゲームの始まりに、握手と「おねがいします」の挨拶をする
  - ・ゲームの終わりに、握手と「ありがとうございました」の挨拶をする
- 友情とはほほえみ
  - ・チームの仲間や対戦相手に笑顔で接する
  - ・仲間を信じ、自らも信頼される人を目指す
  - ・約束を守る
- フェアプレイの精神
  - ・フェアプレイの精神を理解し、ルールを守り、全力でプレイする
  - ・審判に対して尊敬の念をもって接する
- 感謝と「ありがとう」
  - ・バスケットボールをさせてもらえることに感謝する
  - ・バスケットボールができる環境を整えてくださる人々に感謝する
  - ・感謝の気持ち「ありがとう」を口に出して言う
- 仲間の増大
  - ・バスケットボールの仲間を増やすことに努める

■ ホームページ <http://www.ombbl.org/>

日本ミニバスケットボール連盟の精神は「友情・ほほえみ・フェアプレイ」の3つの言葉に象徴されています。しかし、これまでこの3つを具体的に説明したものがなく、指導者や関係者がそれぞれの解釈で子ども達を指導している状態でした。今回発行された、「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンの趣意書は「フェアプレイ」についてわかりやすくまとめてあるため、その内容に準じて、岡山県ミニバスケットボール連盟独自の「フェアプレイ宣言」をまとめてホームページに掲載しました。「フェアプレイ宣言」することで指導者も選手もフェアプレイとは何か、スポーツはどうあるべきかを改めて考え、よりよい指導や取り組み方ができると考えています。

岡山県ミニバスケットボール連盟 理事長 西原健一

## 連盟の理念として 「フェアプレイ」を制定

公益財団法人日本ソフトテニス連盟

公益財団法人 日本ソフトテニス連盟  
JAPAN SOFT TENNIS ASSOCIATION

Home お知らせ 大会情報 全日本チーム 競技者育成プログラム 業務・財務

「フェアプレイ宣言」推進のお願い

2012年10月1日 Category お知らせ

去る12月4日開催の平成23年度第2回評議員会において報告いたしましたとおり（公財）日本体育協会の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンに賛同し、各支部おきましても「フェアプレイ宣言」の推進をお願いいたします。つきましては、各支部の都合でご紹介いただきたく下記ツールを準備いたしましたのでご活用ください。

「フェアプレイ宣言」資料  
→スライドショー形式  
→PDF形式

■ ホームページ <http://www.jsta.or.jp/>

ソフトテニスはフェアプレイやマナーをしっかりと取り入れているスポーツだと自負しています。スポーツ活動を通じた環境保全と青少年の健全育成は重要なテーマであることから、「フェアプレイで日本を元気に」への取り組みを評議員会において確認し、「ソフトテニス長期基本計画2012」の理念にも「ソフトテニスを通じて環境保全と共に自己責任やフェアプレイの精神を身につけ、マナーを重んじる等の教育を推進し青少年の健全育成を図るものとする。」を掲げることとしました。

平成24年2月に開催した指導者研修会では、「日本連盟のフェアプレイ(マナー)礼儀作法等教育活動の取り組みについて」をテーマとして取り上げ、意見交換会を行って事業計画にどのように反映させるかを検討しました。具体的な反響はまだ少ないですが、小学生の大会ではゲーム終了後に握手が自然に交わされるような光景が見られるようになってきたと思います。

今後、特別委員会として設置した「環境・教育プロジェクト」において、中長期的な具体的計画を検討することや、認定NPO法人マナーキッズプロジェクトとの連携協力による事業の展開も考えています。

公益財団法人日本ソフトテニス連盟 専務理事 笠井達夫

他にも、多くのスポーツ団体に「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンを活用いただいています。また、個人のブログ等でも大勢の方がフェアプレイへの賛同の意を表しています。

# 私たちが フェアプレイ宣言 しました。



多くのスポーツ関係者の方から「フェアプレイキャンペーン」に賛同をいただき、フェアプレイ宣言をいただいています。



日本体育協会会長  
**張 富士夫 氏**

心や気持ちに余裕がなくなるとフェアプレイができなくなることもあります。常に心に余裕のある状態を心がけるということが大事なのではないでしょうか。スポーツ界から、フェアプレイの輪を社会に広げていきましょう。



ボクシング  
ロンドン五輪メダリスト  
**村田 諒太 選手**

私が今あるのも、いろんな人との出会いがあったからです。感謝の気持ちこそが、スキルを磨き、フェアプレイの精神を育みます。



ウエイトリフティング  
ロンドン五輪銀メダリスト  
**三宅 宏実 選手**

ウエイトリフティングは自分との戦いの積み重ね。夢をあきらめないことが私のとってのフェアプレイです。



アーチェリー  
**鬼山 直也 選手**

どんな試合でも自分の全力を出し切る。それが僕のフェアプレイです。



カヌー  
ロンドン五輪出場  
**北本 忍 選手**

多くの人の支えがあって、今の私がいることを忘れずに、試合に、そして日々の練習にも臨んでいきます。



競歩  
ロンドン五輪出場  
**森岡 紘一郎 選手**

競歩は、順位を競うだけでなくフォームが判定される競技。どんな時でも正しい歩き方をすることを基本に、技術、体力、そして精神力を磨いていきます。



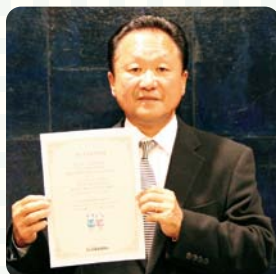
近代五種  
ロンドン五輪出場  
**山中 詩乃 選手**

5種目のスポーツを行うためには、ほんとうに多くの人たちの協力がなければ、練習もできません。スポーツをやれる喜びを忘れないように、フェアプレイの気持ちをいつも持っていたいと思います。



スケート・ショートトラック  
アルペールビル冬季五輪銅メダリスト  
**川崎 努 さん**

あくしゅ、あいさつ、ありがとう。  
みんな一緒にフェアプレイ!



プロゴルファー  
日本プロゴルフ協会理事  
**倉本 昌弘 さん**

ゴルフこそフェアプレイの原点。  
審判のいないスポーツ。  
1人1人が紳士淑女の証である。



テレビ朝日ディレクター兼アナウンサー  
日本体育協会広報・スポーツ情報専門委員  
**宮嶋 泰子 さん**

生きていくのに最も大切なのはコミュニケーション力。それを生んでくれるのがスポーツのフェアプレイ。



スポーツキャスター  
日本体育協会理事  
**ヨーク・ゼッターランドさん**

あくしゅ、あいさつ、ありがとう。  
フェアプレイができた人が  
最高の勝者である。

# スポーツ宣言日本

## ～21世紀におけるスポーツの使命～

### 宣言

スポーツは、自発的な運動の楽しみを基調とする人類共通の文化である。スポーツのこの文化的特性が十分に尊重されるとき、個人的にも社会的にもその豊かな意義と価値を望むことができる。とりわけ、現代社会におけるスポーツは、暮らしの中の楽しみとして、青少年の教育として、人々の交流を促し健康を維持増進するものとして、更には生きがいとして、多くの人々に親しまれている。

スポーツは、幸福を追求し健康で文化的な生活を営む上で不可欠なものとなったのである。

既にユネスコは、1978年の「体育とスポーツに関する国際憲章」において、スポーツが全ての人々の基本的な権利であることを謳っている。しかし、今もなお、様々な理由によりスポーツを享受できない人々が存在する。したがって、遍く人々がスポーツを享受し得るように努めることは、スポーツに携わる者の基本的な使命である。

また、現代社会におけるスポーツは、それ自身が驚異的な発展を遂げたばかりでなく、極めて大きな社会的影響力をもつに至った。今やスポーツは、政治的、経済的、さらに文化的にも、人々の生き方や暮らし方に重要な影響を与えている。したがって、このスポーツの力を、主体的かつ健全に活用することは、スポーツに携わる人々の新しい責務となっている。

この自覚に立って21世紀のスポーツを展望するとき、これまでスポーツが果たしてきた役割に加えて、スポーツの発展を人類社会が直面するグローバルな課題の解決に貢献するよう導くことは、まさに日本のスポーツが誇れる未来へ向かう第一歩となる。

このことに鑑み、21世紀における新しいスポーツの使命を、スポーツと関わりの深い3つのグローバルな課題に集約し、以下のように宣言する。

1. スポーツは、運動の喜びを分かち合い、感動を共有し、人々のつながりを深める。人と人との絆を培うこのスポーツの力は、共に地域に生きる喜びを広げ、地域生活を豊かで味わい深いものにする。  
21世紀のスポーツは、人種や思想、信条等の異なる多様な人々が集い暮らす地域において、遍く人々がこうしたスポーツを差別なく享受し得るよう努めることによって、公正で福祉豊かな地域生活の創造に寄与する。
2. スポーツは、身体活動の喜びに根ざし、個々人の身体的諸能力を自在に活用する楽しみを広げ深める。この素朴な身体的経験は、人間に内在する共感の能力を育み、環境や他者を理解し、響き合う豊かな可能性を有している。  
21世紀のスポーツは、高度に情報化する現代社会において、このような身体的諸能力の洗練を通じて、自然と文明の融和を導き、環境と共生の時代を生きるライフスタイルの創造に寄与する。
3. スポーツは、その基本的な価値を、自己の尊厳を相手の尊重に委ねるフェアプレーに負う。この相互尊敬を基調とするスポーツは、自己を他者に向けて偽りなく開き、他者を率直に受容する真の親善と友好の基盤を培う。  
21世紀のスポーツは、多様な価値が存在する複雑な世界にあって、積極的な平和主義の立場から、スポーツにおけるフェアプレーの精神を広め深めることを通じて、平和と友好に満ちた世界を築くことに寄与する。

現代社会におけるスポーツは、オリンピック競技大会等の各種の国際競技会において示されるように、人類が一つであることを確認し得る絶好の機会である。したがって、スポーツが、多様な機会に、グローバル課題の解決の重要性を表明することは極めて重要である。

しかし、スポーツに携わる者は、そのような機会を提供するだけでなく、スポーツの有する本質的な意義を自覚し、それを尊重し、表現すること、つまりスポーツの21世紀的価値を具体化し、実践することによって、これらの使命を達成すべきである。その価値とは、素朴な運動の喜びを公正に分かち合い感動を共有することであり、身体的諸能力を洗練することであり、自らの尊厳を相手の尊重に委ねる相互尊敬である。遍く人々がこのスポーツの21世紀的価値を享受するとき、本宣言に言うスポーツの使命は達成されよう。

スポーツに携わる人々は、これからの複雑で多難な時代において、このような崇高な価値と大いなる可能性を有するスポーツの継承者であることを誇りとし、その誇りの下にスポーツの21世紀的価値の伝道者となることが求められる。

平成23年7月15日  
日本体育協会・日本オリンピック委員会  
創立100周年記念事業実行委員会  
会長 森 喜朗

スポーツは、なぜ楽しいのか。  
スポーツは、なぜ気持ちいいのか。  
スポーツは、なぜ夢中にさせるのか。  
スポーツは、なぜ感動を呼ぶのか。

ただ勝利することだけが成功であり、喜びであるなら、  
人々は、これほどまでスポーツを必要とはしないはず。  
強くなること、うまくなることだけが、目的であるなら、  
人々は、これほどまでスポーツに打ち込んだりしないはず。

スポーツは一人ではできない。  
いっしょに切磋琢磨する仲間がいる。  
同じ目標に向かってしのぎを削り合う対戦相手がいる。  
そして、審判や応援してくれる人達、  
さらには環境を整えてくれる人達も欠かせない存在だ。

スポーツをする。試合をする。  
そこには、自分自身の努力がある。  
チームメイトと築いた信頼がある。  
対戦相手への敬意がある。  
支えてくれる人達への感謝がある。

これらは人格をつくることにおいて、なくてはならないとても大切なものだ。  
そして、これらこそが、フェアプレイの真ん中にあるものだと、私たちは考える。  
スポーツが楽しく、感動を呼び、気持ちよく、夢中にさせるのも、  
このフェアプレイの気持ちがあるからこそだ。

私たち日本体育協会は、  
すべてのスポーツにおいてフェアプレイを浸透させ、  
実践させる活動に力を注いでまいります。  
フェアプレイは、子供や若者を成長させます。  
彼らのまわりの人、彼らの住む地域を活気づけます。  
そして、きっと、日本を元気にする力になれると信じています。

フェアプレイで  
日本を元気に

あくしゅ、あいさつ、ありがとう



みんなでスポーツを!

**SPORTS**  
for all

わたしたちは、「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンを応援しています。



LAWSON LOTTE SUNTORY

<http://www.japan-sports.or.jp/> 公益財団法人 日本体育協会



「フェアプレイで日本を元気に」  
ホームページ開設!



アクセスして、ぜひ「フェアプレイ宣言」をしてください。

フェアプレイ

検索